

副反応に関するQ and A

Q1: これまでに認められている副反応にはどのようなものがありますか。

A1: 接種後に注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱等が見られることがあります。こうした症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。

新型コロナワクチン（武田/モデルナ社）接種後に現れる可能性がある症状

発現割合	症状
50%以上	接種部位の痛み、疲労、頭痛、筋肉痛
10～50%	関節痛、悪寒、吐き気・嘔吐、リンパ節症、発熱、接種部位の腫れ、発赤・紅斑
1～10%	接種後7日目以降の接種部位の痛みなど（※）

（※）接種部位の痛みや腫れ、紅斑

Q2: 副反応は1回目の接種後より2回目の接種後の方が強いと言われるのはどうしてですか。

A2: 1回目のワクチン接種でいくらか免疫がつくことで、2回目の接種の方が、免疫反応が起こりやすくなるため、発熱や倦怠感、関節痛などの症状が出やすくなります。

Q3: ワクチンを受けた後に熱が出たら、どうすれば良いですか。

A3: ワクチンによる発熱は接種後1～2日以内に起こることが多く、必要な場合は解熱鎮痛剤を服用いただくなどして、様子を見ていただくことになります。このほか、ワクチン接種後に比較的起きやすい症状としては、頭痛、疲労、筋肉痛、悪寒（さむけ）、関節痛などがあります。

ワクチンを受けた後、2日間以上熱が続く場合や、症状が重い場合、咳や咽頭痛、味覚・嗅覚の消失、息切れ等の症状がある場合(*)には、医療機関等(**)への受診や相談をご検討ください。

(*) ワクチンでは、通常、味覚・嗅覚の消失、息切れ等の症状はみられません。

(**) 診療費の目安ですが、薬の処方や検査等がない場合で、平日では約3,000円（3割は個人負担）、時間外・深夜・休日になると、さらに診療費が加算されます。また、紹介状なしで200床以上の病院を受診すると、上記とは別に「選定療養費」として5,500円程度（全額個人負担）が加わる場合があります。

Q4: ワクチンを受けた後の発熱や痛みに対し、市販の解熱鎮痛薬を飲んでもよいですか。

A4: 発熱や痛みがつけば、市販の解熱鎮痛薬（※）を飲んでいただいても差し支えないですが、他に症状がなく、水分を取れる場合は必ずしも解熱鎮痛薬を服用する必要はありません。但し、他のお薬を内服している場合や、妊娠中、授乳中、ご高齢、胃・十二指腸潰瘍や腎機能低下など病気治療中の場合には、飲める薬が限られていることがありますので、主治医や薬剤師にご相談ください。

(※) アセトアミノフェンや非ステロイド性抗炎症薬（イブプロフェンやロキソプロフェン）等

A5: アナフィラキシーが心配です。

Q5: 稀な頻度で（日本国内の報告では100万回に13回）アナフィラキシーが発生したことが報告されています。アナフィラキシーが起きたときには、接種会場や医療機関ですぐに治療を行うこととなります。

アナフィラキシーよりも頻度が高いのは「迷走神経反射」といわれるもので、ワクチン注射への恐怖心や不安感、あるいは痛みが原因で、気分が悪くなったり気を失って倒れたりすることがあります。怖いと思ってワクチン接種を受けると迷走神経反射が起こりやすくなるので、リラックスして接種を受けることが大切です。接種時には、針は見ないほうが良いでしょう。迷走神経反射を起こしても、横になってしばらくすれば回復します。

参考：

厚生労働省 新型コロナワクチン Q&A

<https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/>